

栄町史調査報告書第1集

# 千葉県印旛郡栄町史資料目録 1

文書目録 1

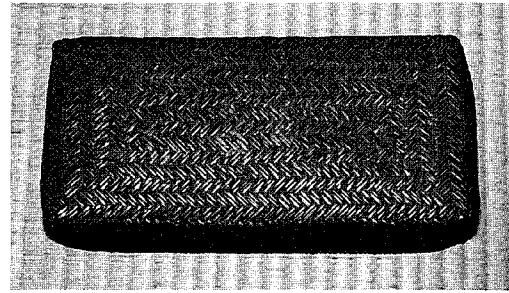
竜角寺区有文書  
酒直区有文書

栄町史調査報告書第1集

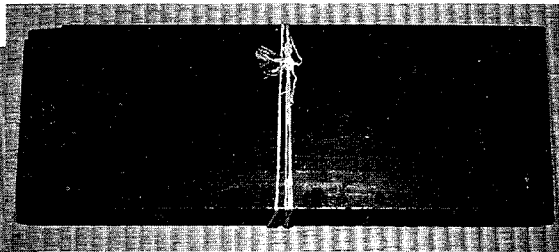
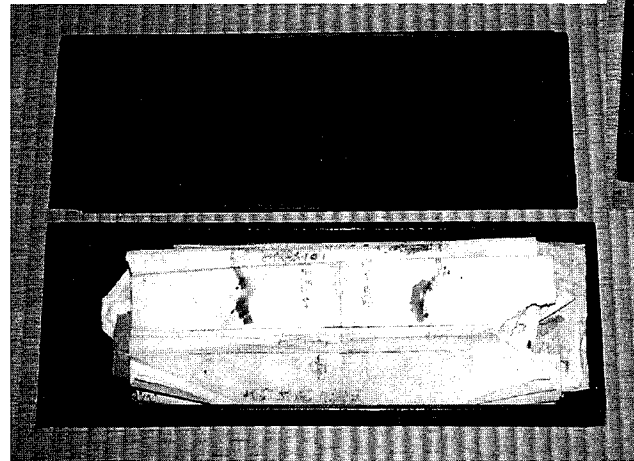
千葉県印旛郡栄町史資料目録 1

文書目録 1

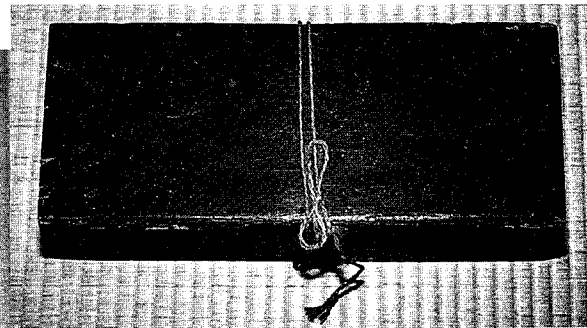
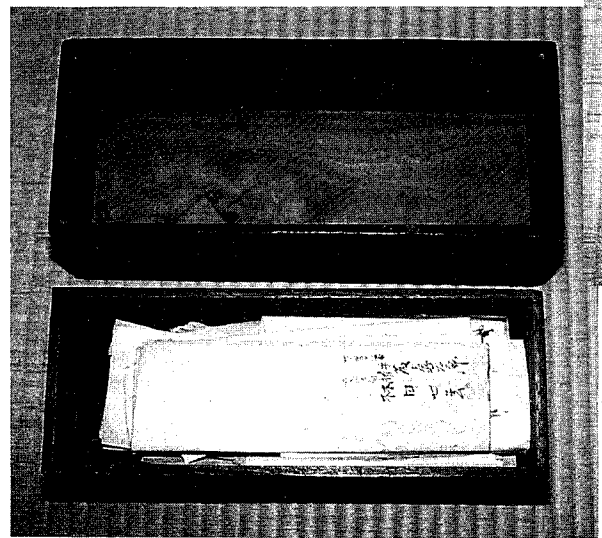
竜角寺区有文書  
酒直区有文書



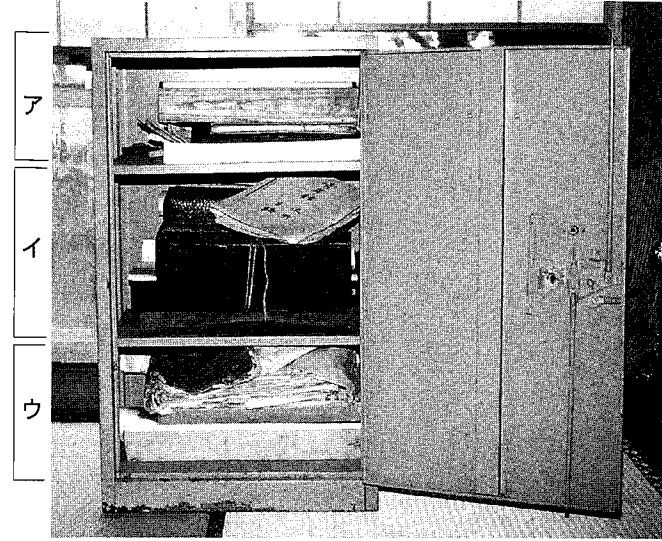
容器A内〔小型柳行李〕 AI-4-0  
文書保管状況



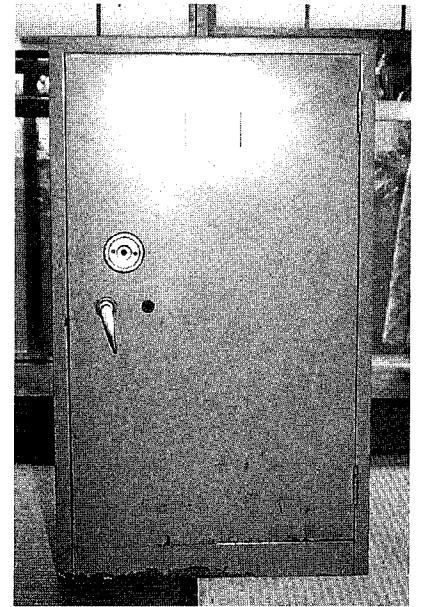
容器A内〔桐箱〕 AI-7-0-2  
〔くり紐〕 AI-7-0-1  
文書保管状況



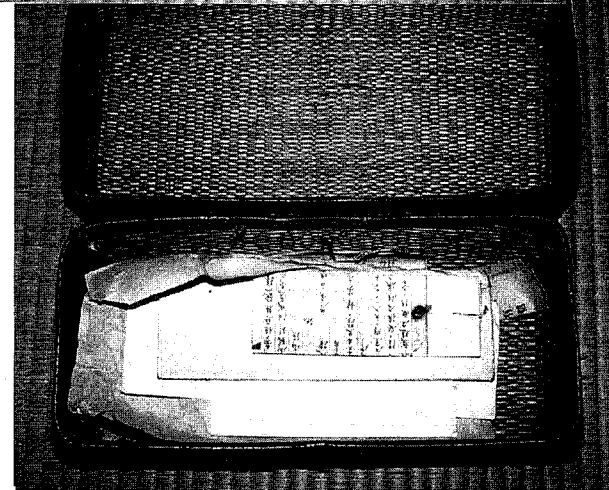
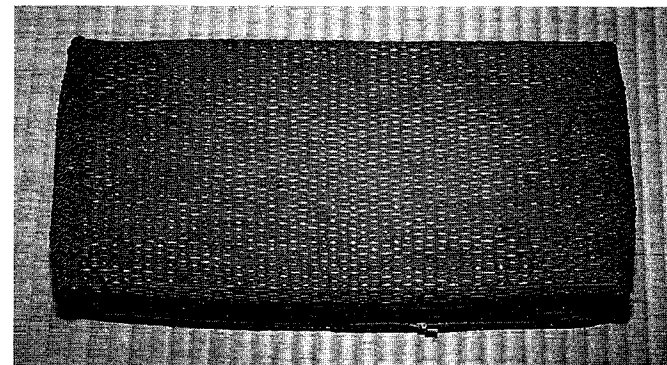
容器A内〔桐箱〕 AI-2-0-2  
〔くり紐〕 AI-2-0-1  
文書保管状況



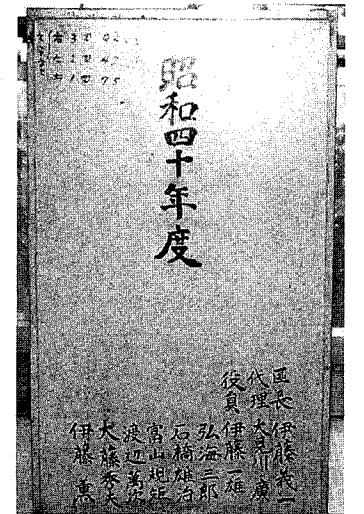
容器A 文書保管状況



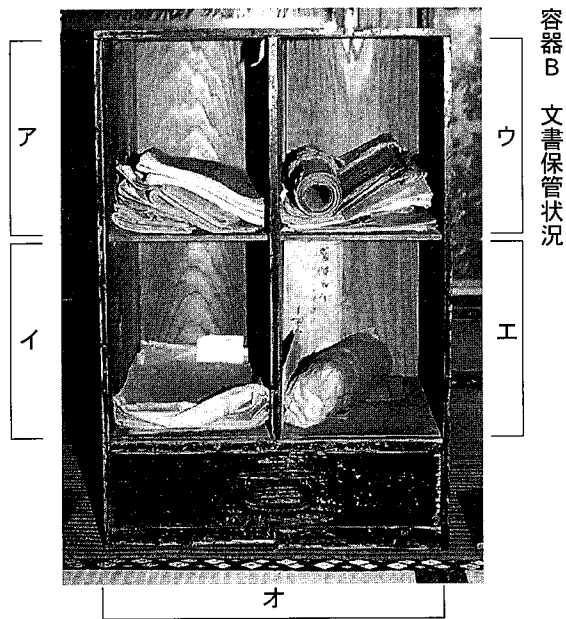
竜角寺区有文書 容器A (正面)  
(区長保管分)



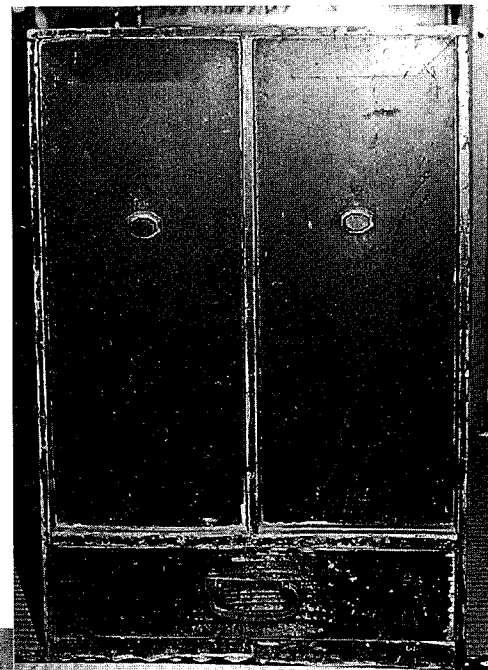
容器A内〔小型柳行李〕 AI-5-0 文書保管状況



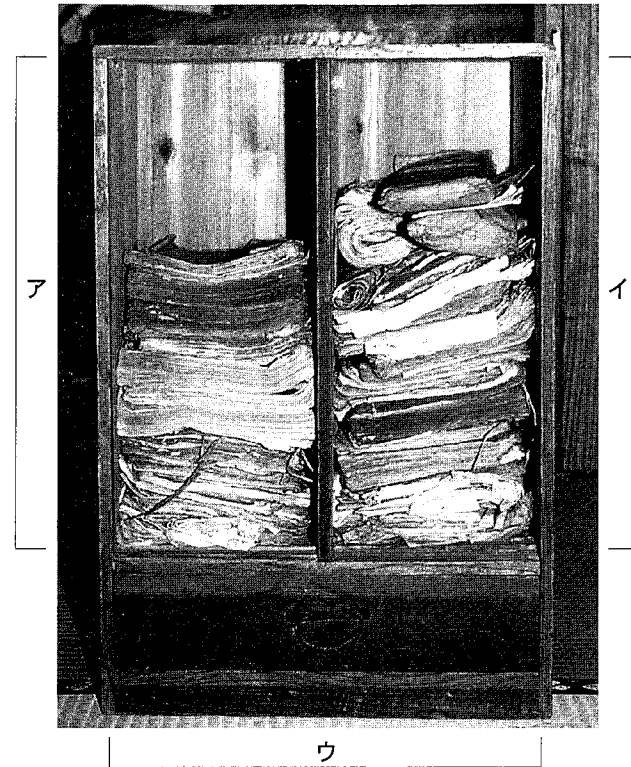
容器A (裏面)



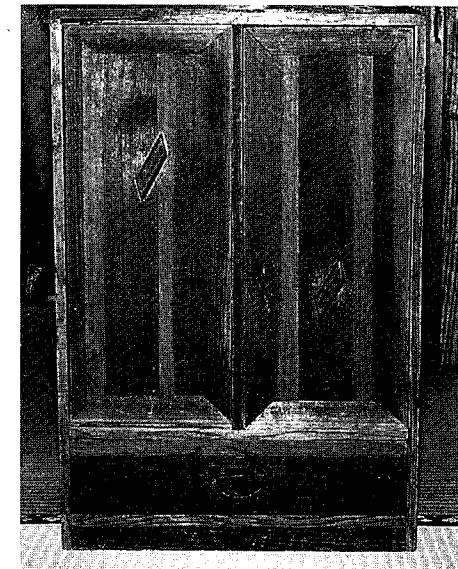
容器B 文書保管状況



竜角寺区有文書 容器B (正面)  
(区長保管分)



容器C 文書保管状況



容器C (正面)

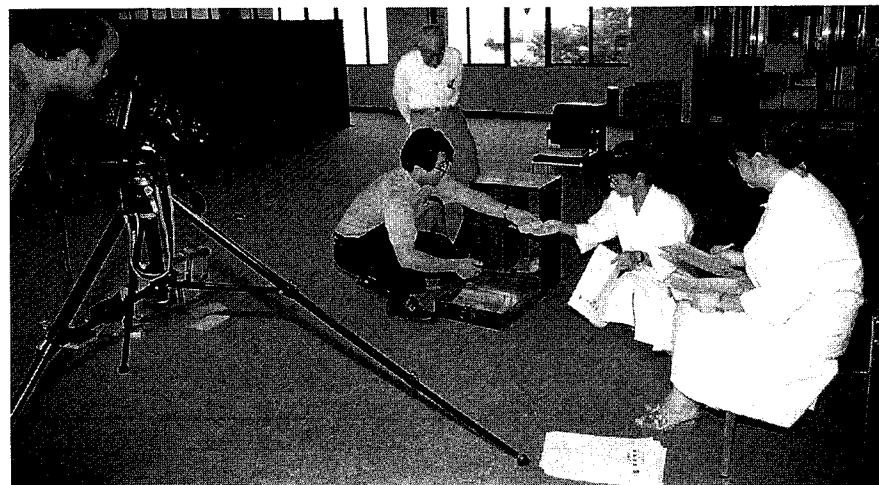
竜角寺区有文書 (区長保管分)



容器Bオ 文書保管状況



容器C (蓋内側)



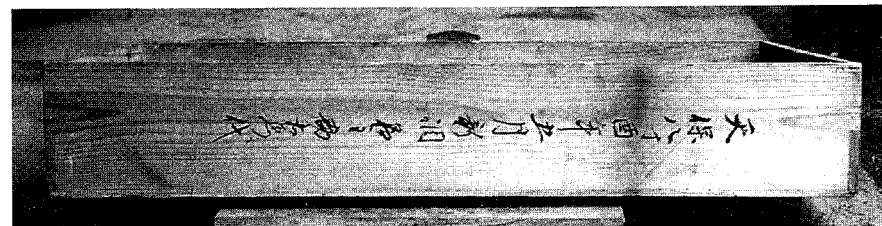
現状記録作業状況 (竜角寺区有文書)



容器Cウ 文書保管状況



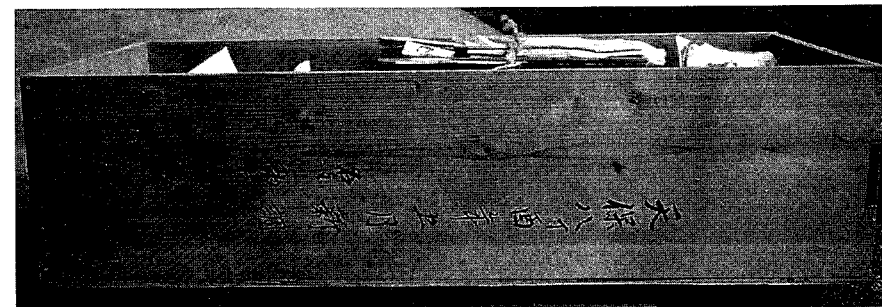
容器A才 文書保管状況



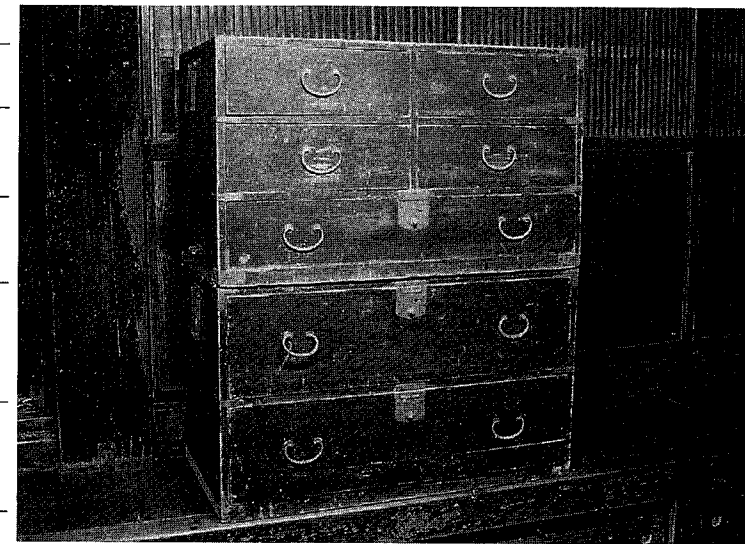
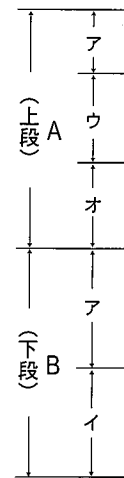
同上 抽斗墨書



容器Bア 文書保管状況



同上 抽斗墨書

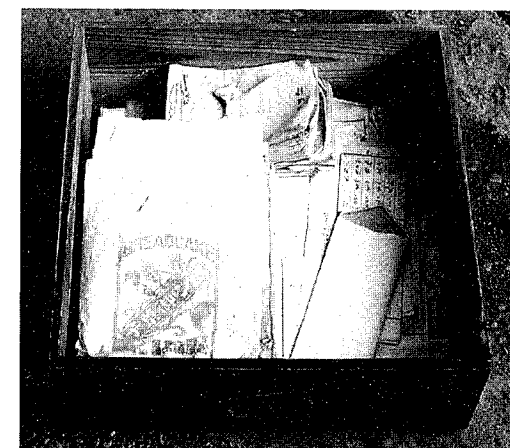


郷  
筆  
筒  
イ  
エ

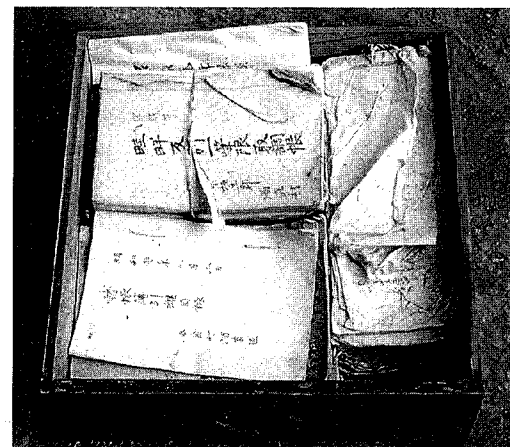
酒直区有文書 (後藤肇家保管分) 容器A・B  
(上段)・(下段)



容器Aア 文書保管状況



容器Aイ 文書保管状況



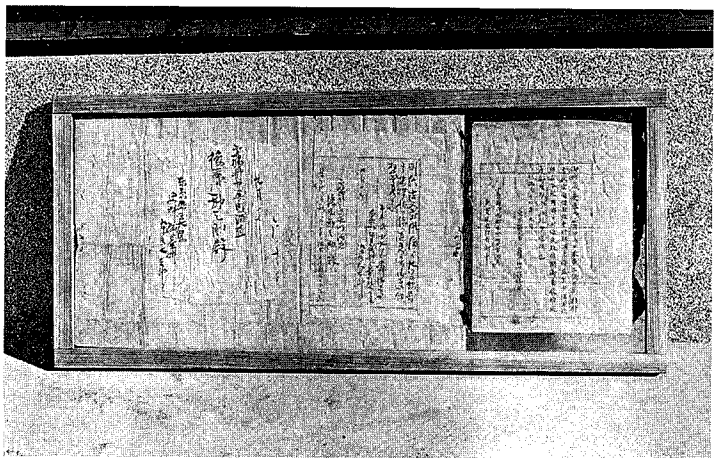
容器Aウ 文書保管状況



容器Aエ 文書保管状況

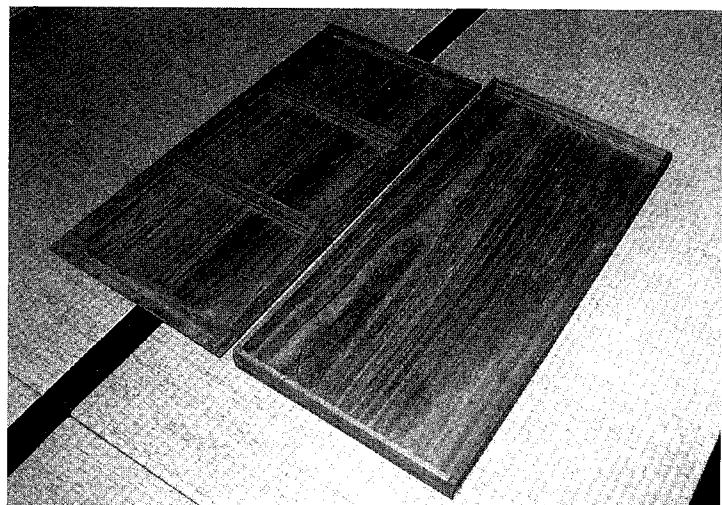
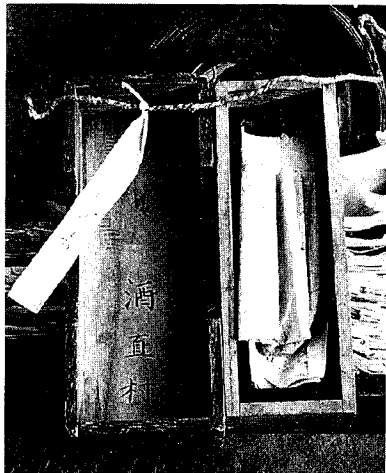


酒直区有文書（多宝院保管分）（正面）Z-1～2



同上（裏面）Z3～5

酒直区有文書（後藤肇家保管分）  
御用（本多様墨附入箱）Aア-2-1  
文書保管状況



同上 収納容器

## 序

水と緑の豊かな自然と恵まれた景観をもつ私たちのふるさと栄町は、原始・古代の時代から脈々とその歴史と伝統を伝え、発展して参りました。利根川、長門川、将監川の三河川と印旛沼に接し、古くから水運、治水あるいは水害と、常に自然とともに向き合い、歩んできた長い歴史と、この地に住み生活する人々の生活史がありました。

しかし、ここ数年は、首都圏の整備が進むなか栄町も大きく変貌しようとしています。昭和四〇年代後半に九千人程だった人口も現在は二万五千人に増え、今後ますます増えていくものと思われれます。これにともない栄町も急速に都市化が進み、都市基盤の整備、生活環境の改善、教育・文化の振興と、日に日に新しく生まれ変わり、成長しています。

このような状況のなか、失われつつある町の歴史・文化・伝統を詳細に調べ、記録に留め、後世に引き継ぐのは現在の私たちの使命であると考え、平成三年度より栄町史の編さん事業に本格的に取り組むことといたしました。

この事業は、原始・古代から現代まで続く長い歴史のなかで、この地に生活していた先人たちの足跡をたどり、郷土の歴史を正しく理解し、栄町をふるさととする皆様方の愛郷心を育み、これからの町の進むべき道を探る指針とすべく行うものです。

本報告書には、「竜角寺区有文書」・「酒直区有文書」の文書目録を収載することができました。

これは、編さんの基本方針の一つである「収集した史（資）料は、町民が活用できるように公文書館法に基づき、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずるよう体制の整備を行い、後世の町民に伝える。」ことの一里塚と考えます。

終わりにあたり、本報告書の刊行につき、資料提供、調査協力等何かと便宜を図っていただいた多くの皆様に改めてお礼申し上げます。もに、今後とも栄町史編さん事業へのより一層のご協力をお願いし、発刊のことばといたします。

栄町長 藤江 恭

## はしがき

國學院大学教授 大谷貞夫

歴史学は史料を引用して論を進めていく学問である。史料がないと成り立たないのであって、歴史小説や時代劇とは大いに異なるところである。史料は文書と記録に分けることができる。文書とは「手紙」や諸種の「証文」の類であって、作成人と受取人がいること、またその両者の間で何らかの働きがなされることが特徴となっている。記録とは「日記」や「事記」などのように、作者が備忘のためとか、のちのために纏めたとか、直接には誰かに何か働きをしないものである。

地方には地方の歴史が厳然として存在するのであるが、一方では日本の歴史の流れの中で、地方もさまざまな影響を受けているのも事実である。地方の歴史は地方に伝来している史料に依拠して描かれるのが本筋であるから、地方に伝存する史料は極めて重要な訳である。

今回『栄町史調査報告書第1集』として、「竜角寺区有文書」・「酒直区有文書」の目録が刊行される運びとなった。厳密な意味では文書というより、文書・記録と称した方が正しいといえるが、この内「竜角寺区有文書」は、昭和三九年に初めて拝見したもので、その全貌がここに明らかとなったことは、誠に喜ばしい次第である。

史料目録の作成・刊行には、実に多くの労力と資金とが必要であるが、栄町においては、幸いに藤江町長・喜多見助役をはじめとして、町の首脳の方々が熱心に町史編さん事業を推進して下さっているので、実現できたといえる。誠に有難い次第である。この事業は一世紀に一度の大事業である訳で、町民の皆様のご理解を頂きたいし、また江戸時代以降区有文書として保存に努力されて来た竜角寺・酒直両区の皆様に感謝したいと思う。

# 目次

口 絵	
序	
はしがき	
凡 例	
文書所在位置図	
竜角寺区有文書解題	1
文書管理と整理の経過	1
江戸時代の龍角寺村	2
明治時代以降の竜角寺区	4
竜角寺区有文書目録	6
酒直区有文書解題	89
文書管理と整理の経過	89
江戸時代の酒直村	89
明治時代以降の酒直区	90
町指定文化財 本多正重寄進状	92
酒直区有文書目録	94
栄町史編さん関係者名簿	191



# 凡例

一 本書は、栄町史調査報告書第1集として千葉県印旛郡栄町の竜角寺区有文書及び酒直区有文書という二つの史料群を調査・整理した目録を収録するものである。

なお竜角寺区有文書（区長保管分）について、掲載の都合上、昭和三〇年一月一日の栄町誕生以後の四二一件を割愛した。

一 史料調査・整理にあたっては、原則として、「原秩序」の維持に努め、整理着手の時点の現状を記録するとともに可能な限り整理作業各段階の作業を記録化することを心がけた。

一 この目録は、史料を原則として年代順に配列してある。ただし、くくり紐、容器など別にすると関係が不明瞭になるおそれがあるものは、その冒頭に配列した。また紙背文書は、表⑤を基準に配列した。

これは、主に町史編さん事業に利用するための暫定的な検索手段という性格のためである。将来、よりわかりやすい検索利用手段を構築するよう努力したい。

一 この目録は、史料番号、表題、年代、作成、宛先、形態という項目で構成されている。

一 年代は、史料に応じて原年代、筆写年代を採録し、年代が欠けていても年月日等が推定可能なものは（ ）でくくって示してある。

一 史料の配列順序は、史料に年代が明記されているものを優先し、次いで干支、月、日のわかるもの、そして一切年代のわからないものの順になつてゐる。なお、年代が欠けていても時代が推定できるものは（江戸）・（明治）・（大正）等と表示してそれぞれの時代の最後に配列した。

一 表題は、原表題、書き出しを採録し、内容が分かりにくいものについては（ ）でくくって補記した。また、原表題・書き出しがないもの

についてはA、B、C…のようにアルファベットで表記し、その中のヒキダシや棚ごとのまとまりにア、イ、ウ…のようにカタカナで表記した。さらにその中の史料のまとまりごとに1、2、3…のように番号を付し、これが複数に分かれる場合は、枝番号を与えた。

また、御用留、布達などは内容（件名）目録をとつてゐるので、その場合①のようにマルでかこつた。それから、紙背文書については、紙背を④、表を⑤とした。

一 用字は常用漢字にあるものはこれを用い、該当する常用漢字がないもの等は原文のままとした。また、助詞の江、而、茂、者、合字の「も」

はより原文のままとした。

一 虫損・破損等で判読不可能の文字は、字数が推定できるものはその数だけ□で示し、文字数が分からないものは、「」でおよその字数を示した。

一 本書収録の史料群の文書整理及び目録刊行の作業に携わつた方々は以下のとおりである。

栄町史編さん委員会専門委員

鏑木行廣（近世・編集委員）

高橋 覚（近世・編集委員）

萩原敏彦（近世・調査研究員）

渡辺善司（近世・調査研究員）

清水邦俊（近世・調査研究員）

飯島 章（近代・編集委員）

矢嶋毅之（近代・調査研究員）

栄町古文書調査会

会長山本英二（徳川林政史研究所）

神保莊朗、高見沢美紀、森本ルミ、工藤雄一郎

（國學院大學大学院生）

小熊 敦、宮下千尋、松本修一、橋本 修（國學院大學学生）

は、「」でくくって内容を簡潔に表記した。

一 原表題等で抹消箇所のある場合…で左傍に示し、訂正箇所のある場合は右傍に記して表現した。

削除 字七斗時冷迎山

訂正 拾三号

一 作成・宛先が複数にわたる場合は、史料に応じて、一名だけ選び、他の名のように記載した。

一 形態は、以下のように略記し、これに該当しないものは史料に応じて形態の名称を記した。

縦〓横帳

横〓綴り

横半〓横半帳

折本〓折本

状〓一紙文書、短冊、名刺、冊物がはずれて一枚になつたもの

図〓絵図、地図

葉〓はがき

色紙〓色紙

札〓守札、附箋

包〓包紙、封紙、封筒、袋

和〓和装刊本

洋〓洋装刊本

一 史料番号は、竜角寺区有文書の大部分については、既に整理作業が済んでいたもので、この史料番号を踏襲した。なお、竜角寺区有文書のうち今回新たに整理作業を行った、区長保管の史料群と酒直区有文書の全てについては、以下の要領で「原秩序」の配列順に記号・番号を付した。史料番号の付与にあたっては、タンスやロッカーなどの大きなまとまり

小池康久（成田山靈光館）

相京眞澄、土橋節子（千葉県文書館）

千田豊子、小池米子、及川春子、鈴木美智子、大谷正子

顧問大谷貞夫（國學院大學教授）

協力者

谷口裕恵、遠藤こと、小池久美子

一 目録化にあたって編年作業及び原稿整理をしたのは町史編さん室であり、解題などの原稿執筆分担は鏑木行廣、高橋 覚、飯島 章、矢嶋毅之、荒井信司の各氏であり、文末に表記した。

一 史料の利用にあたっては、事前に栄町役場町史編さん室に連絡された。

# 竜角寺区有文書目録

文書所在位置図 (栄町大字竜角寺、大字酒直)



(栄町管内図 平成2年3月測量調製より)

## 竜角寺区有文書解題

### 文書管理と整理の経過

竜角寺区有文書は、すでに『千葉県史料 中世篇 諸家文書』、『栄町史資料集(一)』にその一部が紹介されている。この史料群は、昭和三九年に大谷貞夫氏の手によって最初の整理が行われている。当時の整理方法に従って、史料群を状物と冊物に荒仕分けしたうえで整理作業を行っていることが、現在の保存状態から推察できる。クラフト紙の封筒に収められた史料群は、年代順に配列され任意の纏まりごとにビニール紐で括られて大型の茶箱に収納されている。その封筒には表題、年代、差出人、受取人、史料番号などが直接書き込まれている。当時このように整理されたためにこれらの史料群は今日まで保存され二七〇点の史料が確認できるのである。

その後、町史編さん室において平成三年四月一七日に大型茶箱に収納された史料群を、栄町教育委員会社会教育課保管分として確認し、八月七日(平成四年三月三〇日)の間に再整理及び保存作業を荒井信司が担当し、新たに二九五件となった。

この史料群のポリユウムの大半は、天正検地帳の写しを含む年貢割付状などの、土地・貢租関係の史料である。

なお、今回の調査によって、既に整理された上記史料群のほかに、新たに現在でも持回りをしている言わば現用の史料群があることが見出された。これは、平成四年六月二六日に町史編さん室によって確認されたもので、スチール製金庫(A)とけんどん箱(B)、(C)に収納された史料群であった。この竜角寺区有文書(区長保管分)については、この時、現状を三五ミリスチールカメラによって撮影し映像的に記録し、概要を把握した。

この史料群の中には、引き継ぎの経過を示す史料として、昭和三年の「引継目録」がのこされており、それによると「戸籍簿」(明治五年)を

はじめとする史料が三一項目にわたって書き上げられている。

この「引継目録」を見るかぎりでは、近世においては天正一九年検地帳写などの土地及び寺院関係が主であり、明治時代以降は、地租改正にかかわる図面、野帳など土地・地租に関するものが多数を占め、戸籍、学校関係などが含まれる。

したがって、現在残されている史料群は、これらの史料を基礎に今日まで集積され保存されてきたものである。

昭和四〇年に伊藤義一氏の区長就任を期に、老朽化した「本筆筒」から新たに、前述の大型茶箱、スチール製金庫(A)を購入し、茶箱には、年貢割付状全部と江戸時代の簿冊類の殆んどを保管し、またスチール製金庫に桐箱二、柳行李二(幕末(町村制施行前後の状物)字一筆限地図及び公図写を中心に日章旗、詔書などを入れ替えている。(伊藤義一氏のご教示による。)

なお、昭和一七年五月に林田司智郎氏区長の時、けんどん箱(B)及び木箱(区長手元用のため未調査)が寄付されている。

そして新たに確認された史料群については、平成四年七月二二日、八月三日、一九日に町史編さん委員会の史料整理の原則にもとづいて、収納容器の外観の現状を映像的に記録しつつ、スケッチをとり実測をおこない、個別の史料については、原形を損なわずに分けられる最小単位ごとに取り上げ封筒づめをした。この現状記録作業は、高橋寛指導のもとに、渡辺善司、清水邦俊、飯島章、荒井信司及び補佐として、栄町古文書調査会(橋村修、松本修一)、谷口裕恵、遠藤ことがあたった。その後、平成四年八月一八日(二二日)にかけて、近世・近代専門委員と栄町古文書調査会による合宿方式の整理作業を集中的に行い、点検作業を経て平成五年二月二五日に終了した。この区長保管分は、一六〇九件となり、総計一九〇四件の史料を数えることとなった。

(高橋 寛、荒井信司)

栄町史編さん関係者名簿

栄町長 藤江 恭

助 役 喜多見 明

収入役 三上 留雄

教育長 梶谷 幸助

町史編さん室

助 役 喜多見 明 (室長・事務取扱い：平成4年6月1日～)

室 長 瀬ノ尾麗子 (平成3年4月1日～平成4年5月31日)

次 長 馬場 正実 (平成4年6月1日～)

係 長 荒井 信司 (平成3年4月1日～)

主 事 武田 修 (平成3年4月1日～平成4年5月31日)

主 事 丸 彦衛 (平成4年6月1日～)

主事補 岩井 玲子 (平成4年4月1日～平成4年5月31日)

栄町史編さん委員会委員

会 長 伊藤義一 (平成2年2月1日～)

副会長 塩田重治 (平成2年2月1日～平成4年5月31日)

山本正司 (平成2年2月1日～平成4年5月31日、  
副会長：平成4年6月1日～)

(監修者) 大谷貞夫 (平成2年2月1日～)

阿由葉司 (平成2年2月1日～)

小川 守 (平成2年2月1日～)

後藤 肇 (平成2年2月1日～)

高塚 馨 (平成2年2月1日～)

日暮和代 (平成2年2月1日～)

塩田祐一 (平成4年6月1日～)

栄町史調査報告書第1集

千葉県印旛郡栄町史資料目録1

文書目録1 竜角寺区有文書

酒直区有文書

平成五年三月三十一日 発行

編集 栄町史編さん委員会

発行 栄町

〒二七〇―一五

千葉県印旛郡栄町安食台一―二

TEL 〇四七六―九五―二二二

印刷 岡田印刷株式会社